

札幌国際芸術祭2020

イベント

アイデア

作品

になるまで

スペシャルトーク

隆介さん！
クラウドさん！
アーティストって
何してるの？

2019

10.18 Fri.

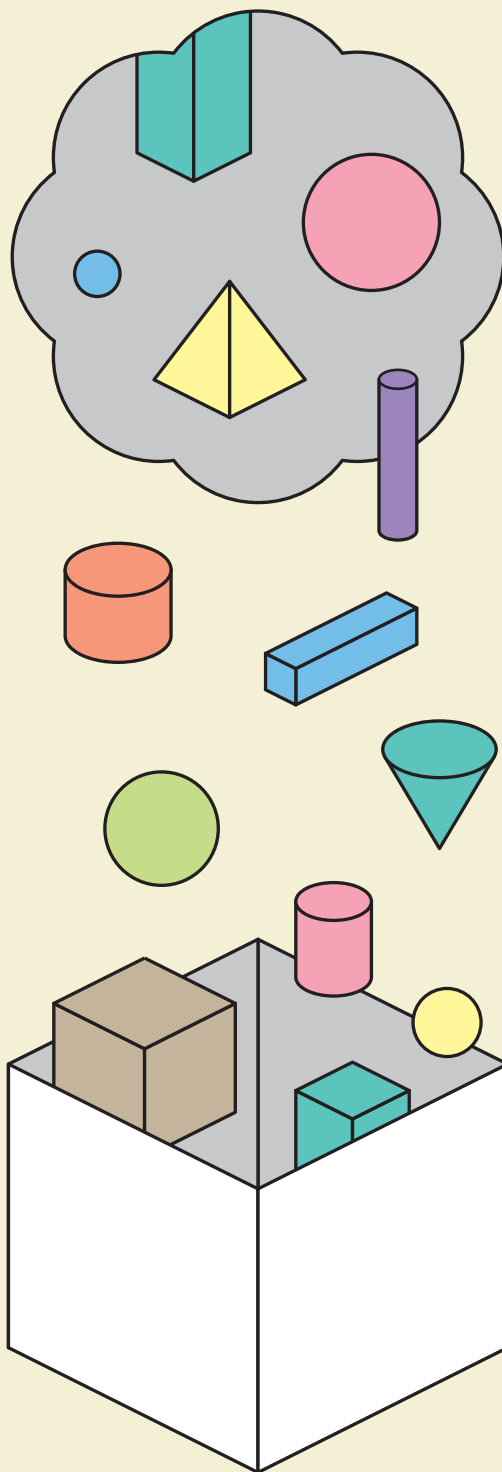
18:00 - 20:00

作品

が

展示

されるまで



会場

札幌市役所
1階ロビー

札幌市中央区北1条西2丁目
定員100名(要事前申込)・参加無料

パネリスト

映像作家・美術作家
伊藤 隆介

アーティスト
クラウド・ポピツァー

SIAF2020 企画ディレクター
(メディアアート担当)

アグニエシュカ・クビツカ＝
ジェドシェツカ

モエレ沼公園学芸員
宮井 和美

<https://siaf.jp>

主催：札幌国際芸術祭実行委員会 / 札幌市 助成：平成31年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業



アイデアが作品になるまで × 作品が展示されるまで

日時 2019年10月18日(金) 18:00-20:00

会場 札幌市役所 1階ロビー (札幌市中央区北1条西2丁目)

定員 100名(要事前申込)・参加無料

※定員を超えた場合は抽選(抽選結果は、10/16(水)以降に落選者にのみ連絡)

言語 日本語・英語(英日逐次通訳あり)

申込方法 9月24日(火)からウェブサイト

(https://siaf.jp/event/talk/p10870)または
電話(011-211-2314)で受付

※電話は平日8:45-17:15

申込締切 10月15日(火)



伊藤 隆介

Ryusuke Ito
映像作家・美術作家

北海道生まれ、札幌市在住。1988年東京造形大学卒業、1992年シカゴ美術館附属大学大学院修了。映像で撮影・投影されるイメージと、それを可能にしている映像技術の関係について実験映画やビデオ作品、映像インスタレーション作品を多く発表している。主な展覧会・上映会に「天神洋画劇場」(2016、三菱地所アルティアム)、「伊藤隆介ワンマンショー; All Things Considered」(2014、札幌宮の森美術館)、札幌国際芸術祭2017(2017、モエレ沼公園会場)など。1980年代より村雨ケンジ名義で、雑誌や新聞などへのマンガ批評の執筆多数。

クラウス・ポビツァー
Klaus Pobitzer
アーティスト

イタリア・シラントロ出身、ウィーン在住。重要人物のように描かれた「普通の人」を特大サイズに印刷した作品や、風刺的なパフォーマンスなどで国際的に活躍。SNSを活用し、実験的なコンピュータグラフィックスを展開中。Felix Grüttsch名義で制作される作品は、オーストリアの新聞に「風刺画」として掲載される一方、FacebookやInstagramなどでは、一般ユーザーの投稿する美しい画像の中に危なげな雰囲気をかもしながらも溶け込んでいる。ショートムービープラットフォームTikTokでは、反体制的なアート作品の、これからのあり方を示唆する動画を投稿している。

美術館などで展示される作品を鑑賞して、「好き」「嫌い」と感じたり、いろいろなことに考えを巡らせたり、受け止め方は人それぞれです。特に現代アートは「なんだか難しそう」と感じている人もいでしょう。

そんな方にオススメしたいのが、「アーティストや作品について“知る”こと」です。アート鑑賞がきっともっと面白くなります。

このトークでは、作品を制作するアーティストと、展覧会を企画するキュレーターや学芸員が、「アイデアが作品になるまで」と「作品が展示されるまで」にはどのような想いやプロセスがあるのかをお話します。

作品や展覧会の見え方がガラリと変わるはず。ぜひご参加ください。



伊藤 隆介(長征—すべての山にのぼれ)2017 撮影:小牧 寿里



Klaus Pobitzer, Real Life Matters, 2019

アグニエシュカ・クビツカ

Agnieszka Kubicka-Dzieduszycka
SIAF2020企画ディレクター
(メディアアート担当)

ポーランド在住。メディアアートを専門とするキュレーター。1994年よりWROメディアアートセンター財団*の一員として、ポーランドのメディアアート界を牽引する国際イベント「WROメディアアートビエンナーレ(WRO)」に過去14回に渡り携わる。2016~2017年に同センターで開催された日本のメディアアート展「Reversible// Irreversible// Presence」、WRO 2019「HUMAN ASPECT」における日本プログラムを担当するなど、日本のメディアアーティストとの関わりも多い。

*現代美術、メディア、コミュニケーションを専門とするポーランドの民間公益団体。

宮井 和美

Kazumi Miyai
モエレ沼公園学芸員

北海道生まれ、札幌市在住。2001年金沢美術工芸大学美術工芸学部美術科芸術学専攻卒業。2003年から現職。公園という開かれた場での創造活動の可能性を探る。これまで企画、担当した主な展覧会・アートプロジェクトに「進藤冬華 移住の子」(2019)、「札幌国際芸術祭2017 RE/PLAY/SCAPE」(2017)、「吉田夏奈 プルメリアに映る雪」(2015)、「狩野野郎 あいまいな地図、明確なテリトリー」(2013)、「佐々木秀明 Droplets Garden」(2013)、「SNOWSCAPE MOERE」(2005-2012)など。

札幌国際芸術祭 https://siaf.jp

札幌国際芸術祭(Sapporo International Art Festival 略称: SIAF)は、3年に一度、札幌を舞台に開催される芸術の祭典です。現代アートやメディアアートの紹介などを通じて市民の創造性を高めるとともに、街の風土や北方圏の文化などにも向き合い、札幌の魅力を広く国内外に発信する機会としていきます。

札幌国際芸術祭2020 (SIAF2020) Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa (アイヌ語)

テーマ オブ ルーツ アンド クラウドス シンリット ニスクル
Of Roots and Clouds: ここで生きようとする | Sinrit/Niskur (アイヌ語)

会期 2020年12月19日(土)~2021年2月14日(日) [58日間]

主な会場 札幌芸術の森、札幌市民交流プラザ、北海道立近代美術館、mima 北海道立三岸好太郎美術館、札幌大通地下ギャラリー500m美術館、札幌市資料館、モエレ沼公園



お問い合わせ: 札幌国際芸術祭実行委員会事務局

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階 札幌市市民文化局 国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314(平日8:45-17:15) | FAX: 011-218-5154 | E-mail: info@siaf.jp



siaf2014info



siaf_info



siaf_info